

1・本園の教育目標

- ・基本的な生活習慣を身につけ、心と丈夫な身体を育てる
- ・周りの人や自然とのふれあいを通して、感動する喜びを育てる
- ・遊びを通して仲間との関係を育み、秩序と協調の精神を育てる
- ・経験したこと、考えたこと等を言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育む
- ・家庭と地域との協力のもとに、思いやりのある子どもに育てる

2・本年度の重点的に取り組む目標…表内赤文字

3・評価項目の達成及び取り組み状況

取組と成果に関する評価結果… A：とても良い B：良い C：普通 D：良くない（要検討）

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント 評価結果に関する説明・意見 書	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括評価
6 研修 ① 教師の更なる保育の向上	・研修会への積極的な参加や園内研修を実施し、保育の振り返りに活かす。	4	幼児が遊んでいる姿を記録し、幼児の興味・関心に捉え、遊びに活用する。	B (3.0)	4	研修で学んだことを実践し、次の保育に繋げるようになった。	B (3.0)	B (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終礼での研修報告を行い、教員同士で共通理解するようになってきている。</li> <li>・研修報告を行うことで、研修内容を見直し、他者に伝えたいことを考えることで、スキルアップにも繋がっている。</li> <li>・終礼で研修報告をする際、より相手に分かりやすく表現しようとしたり、他の職員が興味がある事や必要な情報をより詳しく報告しようとしたりし、プレゼン能力を磨く機会とも考えたい。報告を聞いて、実践したり試してみたりした際は、感想やお礼を伝えたい。</li> <li>・日々の保育で子どもとの関わり方や工夫などを他の教師から学ぶことも多い。園内の教師から得たヒントや工夫を自分のものにしていくことで、自らを高められる。</li> </ul>
		3	学んだことを活かし、幼児の姿に理解を深める。		3	終礼や園内研修で報告し合い、教員間で共有する。			
		2	自らを高めるための研修報告をし、さらに、学習を心がける。		2	研修で学んだことを学年で報告するようになった。			
		1	意欲的に研修会に参加する。		1	年間3回は研修会に参加する。			

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント 評価結果に関する説明・意見書	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括評 価
② 1 教育課程・指導計画 保育の計画性	子どもの総合的な学びを育み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程を編成する。 「社会生活との関りに ついて考える」	1	近くの施設(市民センターや商店、公園等)を訪問したり、利用計画を立てたりする。	B (3.1)	1	生活に関係の深い場所や施設などに興味や関心持つようになった。	B (2.8)	B (2.9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活との関わりについてねらいを明確に持ったことで、幼児の姿を踏まえ、育ってほしいと思う内容を保育に取り入れたり、実践することが出来た。</li> <li>・異年齢保育で年齢の違う子ども達が関わる姿を観察し、育ちの段階を再認識する事が出来た。パートナーさんと関わる姿や施設訪問時の様子を保護者に伝える事で、家庭でも休日に子どもの館や公園、八百屋に出掛けて下さる機会となり、子どもにとってより良い環境に繋げる事が出来た。今後も積極的に異年齢交流、地域交流を計画していきたい。</li> <li>・異年齢交流や、パパママ先生の導入により、子供、大人に関わらず、様々な個性があると、自然に学んでいる。そのおかげで、活動を通し、幅広い(年齢の)他者と共感したり、手を差し伸べようとする力が育っている。</li> </ul>
		1	クラスの中でグループや当番活動の内容を話し合う機会を設ける。		1	友達との仲間意識が芽生え、人の役に立つ喜びや感謝される喜びを味わうようになった。			
		1	異年齢交流保育を行い、色々な友達と関われるような環境づくりや仲立ちをする。		1	自分の思いや考えを表現しながら友達とともに楽しみ、気持ちを共有するようになった。			
		1	クラスや小グループでルールのある遊びができるような場所や時間を作る。		1	ルールを守る大切さを知り、競争や勝負を楽しむようになった。			

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果							コメント 評価結果に関する説明・意見書
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果	総括評 価	
③ 3 安全点検や教師・幼児の安全対応力を高める取り組み 安全管理	・園運営に必要な安全マニュアルの改善を図る。	4	園内の危険について幼児と一緒に考えて話し合う。	B (2.9)	4	危険な状況（物）を発見した時は、近くの大人に伝えるようになった。	B (2.9)	B (2.9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースで報じられた災害等を子ども達とじっくりと話し合う時間を必ず作る事が大切と思う。また、教師が日頃から「滑るかもしれない」「引っかかるかもしれない」と子どもの特性を理解したり、危機管理能力を持てるよう努力したりする事も大切だと思う。</li> <li>・変化する園を取り巻く環境及び一人一人の子ども達の状況を的確に把握し、情報を共有のため密にするよう心がけた。活動中の子ども達の安全が確保されるよう職員配置を再確認した。クラスに安全についてのポスターを貼って話し合ったり、日頃の避難訓練で命の大切さについて考えたりしているおかげで、放送が流れたら聞こうとする姿勢や、園内での安全な過ごし方が身に付いた。</li> <li>・避難訓練は真剣な雰囲気の中で取り組めており、「お・は・し・も」の約束や訓練の重要性についても子どもたちの理解が深まっていると思う。</li> <li>・普段の生活の中で廊下や階段を走っている姿はまだ多く見られ、危ないと感じることが多い。繰り返し危険性について、わかりやすく伝えていく必要がある。</li> </ul>
		3	警察、消防と連携し、研修を受け、緊急時の対応を身に付け、保育に活かす。		3	廊下や階段、避難経路の安全な歩き方が身に付いた。			
		2	避難訓練等を行い、幼児の安全に対する意識を育む。		2	「お・は・し・も」の約束が分かり、守るようになった。			
		1	危機管理マニュアルを定期的に見る。		1	避難訓練に参加している。			

## ○総合的な評価結果

評価	理由
3. 0  (B)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に積極的に参加し、学んだ知識や情報を終礼で共有し、職員同士で共通理解するようになった。今後も学ぶ機会を多くの職員が利用できるような環境作りをし、自己研鑽したことを保育に活かせる情報共有をしていきたい。</li> <li>・異年齢交流や園外活動など以前から行ってきたが、園全体の取組みとして教師がねらいを「社会生活との関わり」と明確に持ったことで、さらに活動内容が広がった。公共の施設や公園、商店等を利用して身近な人との触れ合いや関わりを通して、相手の気持ちを考えて関わること、人と関わる楽しさや人の役に立つ喜びを味わう事ができた。今年度始めたパパ・ママ先生の導入も、幼児にとり新たな人との関わりを学ぶ良い機会となった。また、保護者にも子ども達の様子や園の教育内容の詳細を知る利点があり、引き続き継続していく予定である。今後も積極的に社会との関わりが増えるような取組みを計画していきたい。</li> <li>・定期的に行う避難訓練に加えて、消防関係者を迎える避難訓練を計画した。紙芝居を手作りし事前に話し合う時間を設けたことで園児がより真剣に訓練に参加し、深い学びに繋がった。避難訓練を通して、災害のニュースを意識して見て避難方法を友達や教師と話し合う姿が見られる様になった。今後も、命の安全教育と合わせて、子ども達に丁寧に伝えていきたい。</li> </ul>

## ○今後取り組む重点的課題

課題	具体的な取り組み方法
① 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントを行い、子どもの総合的な学びを育み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程を編成する。</li> <li>・教師が幼稚園指導要領のさらなる理解に努め、教育課程の現実化を図る。</li> </ul>
② 教育環境整備 幼児の興味・関心に即した環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室内外の環境設備、整理、整頓と幼児が楽しめる掲示板の再構成</li> <li>・表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性を育むための環境づくり</li> </ul>
③ 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が家庭教育に関する知識や機能を学べる、子育て講座を実施する。</li> <li>・保護者が興味のある子育て情報を発信する。</li> </ul>

## ○学校関係者評価委員会の評価

委員会実施日

令和7年 3月 3日

- 園長先生の温かく穏やかな人柄が、そのまま園全体の優しい雰囲気につながっている。また、子ども達や保護者、職員一人ひとりに寄り添う園長先生の姿勢が、安心感のある園づくりに大きく貢献している。職員も子ども達への声掛けが温かく、子ども達が生き生きと活動している。
- 幼児期の学びが小学校の教育とつながるよう工夫がなされている。また、小学校へのスムーズな移行を意識して交流活動も適切に行われており、情報共有も円滑である。
- 職員が積極的に研修に参加し、学んだ知識や情報を共有し合い共通理解を図るなど、職員の自己研鑽と職員同士の連携が取れている。
- 「社会生活との関り」という明確なねらいをもって異年齢交流や園外活動などの体験型の活動が計画的に組み立てられており、学びの機会が充実している。また、子ども達の興味を引き出す工夫もされている。
- 避難訓練が定期的実施されるなど、園内の安全対策がしっかりと講じられている。
- 保護者へのアンケートにおいても肯定的な回答が多く、充実した教育活動が実践され、職員と保護者とのコミュニケーションが円滑で連携がしっかりと取れていることが伺われる。
- 次年度以降も、保護者や関係機関と連携しながら、基本的な生活習慣の確立や社会性・協調性の育成、学びの土台作りなど、子どもが自信をもって小学校生活をスタートできるような教育活動を実践されることを望みます。